

令和元年11月 岡山市教育委員会定例会 会議録

| | | | |
|--|-------------------------|------------------|-------|
| 1 開催日 | 令和元年11月19日(火) | | |
| 2 開会及び閉会 | 開会 | 14時00分 | |
| | 閉会 | 14時30分 | |
| 3 出席委員 | 教育長 | 菅野和良 | |
| | 委員 | 石井希典 | |
| | 委員 | 妹尾直人 | |
| | 委員 | 片山美香 | |
| | 委員 | 河内智美 | |
| 4 会議出席者 | | | |
| 職名 | 氏名 | 職名 | 氏名 |
| 教育次長 | 石井雅裕 | 教育次長 | 岡林敏隆 |
| 次長(教育総務部長兼務) | 赤野政治 | 学校教育部長 | 奥橋健介 |
| 生涯学習部長 | 重松浩二郎 | 教育企画総務課長 | 小林芳由 |
| 学校施設課長 | 板野正博 | 指導課長 | 松岡和俊 |
| 生涯学習課長 | 淵田裕之 | 指導課教育支援室室長 | 馬場真一 |
| 生涯学習課公民館振興担当課長 | 今村正樹 | 生涯学習課公民館振興室室長補佐 | 黒瀬高弘 |
| 地域子育て支援課課長補佐 | 黒瀬格 | 事務局(教育企画総務課課長補佐) | 澤谷好太郎 |
| 事務局(教育企画総務課副主査) | 猿渡奈津江 | | |
| 5 議題及び結果 | | | |
| なし | | | |
| 6 教育長等の報告 [令和元年10月12日(土)～令和元年11月8日(金)] | | | |
| 10/12～13 | 自然体験リーダー養成講座 step3① | 地域子育て支援課 | |
| 10/13 | ジュニアオーケストラ対面式 | 地域子育て支援課 | |
| 10/15 | 子どもが輝く学びづくりプロジェクト(公開授業) | 指導課 | |
| 10/16 | 教育長学校訪問 | 教育企画総務課 | |
| 10/16 | 子どもが輝く学びづくりプロジェクト(公開授業) | 指導課 | |
| 10/16 | 子どもが輝く学びづくりプロジェクト(公開保育) | 指導課、幼保運営課 | |
| 10/17 | 子どもが輝く学びづくりプロジェクト(公開授業) | 指導課 | |
| 10/19 | G20 岡山保健大臣会合歓迎プログラム | 地域子育て支援課 | |
| 10/21 | 教育長学校訪問 | 教育企画総務課 | |

| | | |
|----------|--|-----------|
| 10/21 | 子どもが輝く学びづくりプロジェクト（公開授業） | 指導課 |
| 10/24～25 | 教育長学校訪問 | 教育企画総務課 |
| 10/25 | 子どもが輝く学びづくりプロジェクト（公開保育） | 指導課、幼保運営課 |
| 10/26～27 | 自然体験リーダー養成講座 step3② | 地域子育て支援課 |
| 10/28 | 教育長学校訪問 | 教育企画総務課 |
| 10/30 | 子どもが輝く学びづくりプロジェクト（公開授業） | 指導課 |
| 10/30 | 子どもが輝く学びづくりプロジェクト（公開保育） | 指導課、幼保運営課 |
| 10/31 | 教育長学校訪問 | 教育企画総務課 |
| 10/31 | 子どもが輝く学びづくりプロジェクト（公開授業） | 指導課 |
| 11/1 | 教育長学校訪問 | 教育企画総務課 |
| 11/3 | わくわく子どもまつり in 岡山ドーム | 地域子育て支援課 |
| 石井委員 | ○ 大野小学校の学校訪問が特に気になるが、教育長の学校訪問についてお伺いしたいと思う。 | |
| 教育長 | ○ この10月12日から11月8日までの期間に6校に行った。まず大野小学校だが、学力向上については授業力の向上に主眼を置いて取り組んでいるということだった。指導課の学プロとか積極的に取り組んでいて、この日も何人かの先生は三門小学校のほうへ参観に行っていた。 それから、家庭学習では自主学習に力を入れていて、スタンダードをつくって頑張っているということだった。トイレトペーパーのホルダーが4、5年前は、取り付けても壊されたり、とられたりしたというぐらい荒れていたときがあったのだが、今はちゃんとついていて、それで子どもがカバーを縫ってくれて設置しているという取組もしているということだった。 それから、3年生の児童の一人がスペインにサッカーで行くことになっているという話も聞いた。不登校が学校規模の割には6.7人と若干多い。頑張って登校するように対策はとっているのだが、なかなか厳しい状況であるということも言っていた。 それから、給食のアレルギー対応を必要とする児童が15人いるそうで、栄養士の未配置は非常に厳しいのだという話であった。 本当に授業にいろいろ変化を与えながら、先生たちが頑張っているなあということも思った。 次に、操山中学校だが、学力向上については授業公開をしっかりと実施してきていて、以前と比べると少人数での活動を活用した授業ができるようになってきたということも話されていた。学習ルールを中学校区で統一していて、もう小学校で勉強して培ったことを中学校でもそのまま取り入れて段差がないようにしているということだった。 それから、家庭学習についてはネットモラルや、メディアコントロールなどにもしっかりと取り組んでいると。 それから、寺子屋操山ということで、公民館で寺子屋を開いて地域の方がボランティアで中学生を指導してくれているということも話されていた。 この日、朝行っただが、生徒指導上課題を抱えている生徒が校門のところで迎えてくれて、その生徒に2、3人の先生が私の帰るまでずっとつき合っていた。これは一般の人から見れば、もしかしたら生ぬるいのではないかと思われるかもしれないが、そういう生徒に対しての扱いとしては今までのいろんな失敗から中学校の先生たちは上手に取り組まれているなあということも思った。 それから、操山中学校はすぐそばに盲学校があるのだが、そこと連携し、絆プロジェクトということで、例えば小学校でのあいさつ運動や後楽園での英語でのボランティアなどに取り組まれている。操山中学校も授業が以前に比べると、子どもが活躍できるような、そういうちょっと活性化した授業を頑張っておられ | |

た。

続いて、御津南だが、岡山市内でものどかな環境の小学校である。学力向上については、再来年、令和3年に英語の研究会が行われることになっているということで、今から授業研究を頑張っていると。さまざま習慣づけるということをやテーマにしているということだった。

また、自主学習の手引を作成して、できるだけ授業とリンクするような形で自主学習に取り組んでいる。

それから、御津の学区も中学校区で統一した子育てということで、しっかり中学校区で集まって話をしている。

特色としては太鼓の取組があり、御津町時代に太鼓を寄贈してもらっているのだが、それを学習発表会等で地域にも出ていって発表するのだが、そういう取組をとおして、感謝の心とか、上手になっていくという成功体験を得ているということだった。

次の千種小学校は学力については朝学習で漢字のプリントをしたり、計算をしたりするのだが、人数が少ないので管理職が採点しているということだった。そうやって統一して取り組んでいると。

ここも、家庭ではメディアコントロール強化週間のようなものを設けて、しっかり上手なメディアとの向き合い方を指導しているということである。

基本的に、ここの学区では、保護者が協力的で、不登校等になりにくいよう、保護者が、何が何でも学校へ行かせるのだというような感じだそう。不登校児は、ほぼないということだった。非常に地域が協力的な学校である。

次の太伯小学校は、義務教育学校になる山南の中学校区なのだが、学力向上では伝え合いということをやテーマに中学校区で研究に取り組んでいるそうである。そして、自主学習にしっかり取り組んでいて、強化月間なんかを設けてやっていた。掲示もしっかり使って、広まるようにやっておられた。

それから、ここもメディアコントロールもやっておられる。不登校はいないそうである。働き方改革としては、基本的に少人数の学校はそうなのだけでも、校務分掌が大変多く一人一人の仕事が多いので時間がかかるということはある。しかし、例えば企画委員会と職員会議のメンバーがほぼ同じなので、少しでも早くなるように工夫しているということだった。

地域が非常に協力的で、たまたま地域の方が学校に訪問していて、子どもが何か悪いことをしていると、直接、怒ってくれるのだというようなことも言われている。問題としては、人間関係が固定化することによって起きてくる問題行動が多いという話であった。

それから、浮田小学校は国語の研究に取り組んでいて、思考力をつける授業づくりというのを全員取り組んでいるということだった。朝の学習では新聞を使って書くということ、天声人語を書き写すという学習も以前あったのだが、一つの記事ということではなくて、新聞を使った書く作業というか、学習に取り組んでいるということだった。

ここも、家庭で新たな学習課題を見つけるというのは若干無理があるかなというお話である。不登校児は、3人でこの規模では多いと思うということだった。地域が非常に協力的で、この訪問の少し前に市長が、亀山城を守る会というのに出られているのだが、浮田学区の行事だったが、子どもも参加していて非常にいい雰囲気に取り組んでいるということだった。

それから、校務分掌も一人一人が多いのだけれども、1人1リーダーの取組というのをやっていて、多い中でも一つのことは、若くても全体の中でリーダーとして実践していくということに取り組んでいるそうである。

最後に、上道中学校だが、学力向上は放課後学習でボランティアの人を活用し

| | |
|---------|--|
| | <p>て頑張っているということだった。地域が非常に協力的で、ゆえに様々な会に、先生や子どもに出てくれという依頼がある。以前は全部対応していたが、上道中学校区は小学校が5つあるので、それに全部対応していたら大変だということもあり、現校長赴任以来、整理をするのに明け暮れた3年間だったという話だった。</p> <p>ある学年は、入学時から崩壊寸前のところがあったのだけれども、先生たちがチームとなって乗り切っていて、現在は全くそのようなことはないという話をされていた。非常に校長の人間性が先生たちに浸透しているなあと、非常に素朴で温かい人なのだが、そういうのを感じた学校だった。</p> <p>以上である。</p> |
| 石井委員 | <p>○ 今のところで、特に共通して不登校について状況を詳しく教えていただいて、市の教育委員会として不登校にも取組を強化されるということだと認識した。それぞれの状況がある中で、一概にこうだとかということとはできないと思うが、教育委員会としての取組の方向性とか、今も当然取り組まれていると思うけれども、改めてお伺いできればと思う。</p> |
| 教育支援室室長 | <p>○ 不登校についてであるが、特に不登校児が増えていることについては大きな課題と捉えている。しかしながら、適応指導教室を充実するなど、多様な形の学びの場の提供や、学校には不登校児童・生徒支援員の派遣や、別室指導、さらに、特に小学校では朝送り出しというか、登校時に家から出られない場合に迎えに行くような支援員というものを今配置もしておるところである。そういった資源を使いながらも、担任の先生とのかかわりというのがやはり一番だと思っている。それから教育長のお話の中にもあったが、知的、発達障害との関係性というようなところも特別支援教育とも連携させていきながら、まだまだ不十分なところを今後も検討して子どもへの対応を進めていきたいと考えている。</p> |
| 石井委員 | <p>○ 特に、小学校の不登校あるいは低学年の不登校がふえている点について、何かそれに向けて対策とか方針があれば教えていただけるか。</p> |
| 教育支援室室長 | <p>○ 低学年の部分については、就学前の段階での連携ということで、幼稚園等との話し合いの場を持って小学校の状況をまずしっかり知っていただいて、園の中でどういったこと取組が必要なのか、また園のほうでの現状を我々も知ることによって、園との連携というのをまず一つ考えている。また、家庭的にも送り出しの弱い家庭であれば、福祉との連携や、さらには先ほど申し上げたような発達障害の子どもであれば、どういった支援が適切なのか、特に担任の教員が学んでいくという点も必要だと思っているので、教職員の研修も含めて取り組んでいきたいと考えている。</p> |
| 教育長 | <p>○ 欠席が一日でもあれば連絡をとるとか、3日続けばもう報告をしてもらおうということが最低限あるのだけれども、やはりこれもほかの問題行動と同じように初期対応が非常に大切で、不登校になりそうだなあというときに早く学校から手を差し伸べていく。これは、この前河内委員も言われていたけど、親に恩を売るというのではないけれども、学校はここまでしてくれるのだというように思わせて、とにかく親が学校に子どもを行かせようという気持ちにならざるを得ないような、状況に持っていくのかなあということは考えているが、先ほど室長が言ったように、それぞれの子どもの特性もしっかり見きわめていかないといけないので、無理に登校刺激を与えることが、一概にいいとは言えない場合もあるので難しい。さらに、議会でも指摘を受けたのだが、最近では不登校の子が多い割に適応指導教室を利用している子どもが、非常に少ないということがある。その理由は、要は当然不登校になっているので、適応指導教室のような集団にすぐに送り込むというのはなかなか難しいのだが、適応指導教室に行っても、すぐに行けなくなるということもあるので難しい。もっと様々な工夫をして適応指導教室を活用するようなことができないかなあというのは研究していくところである。</p> |

| | |
|--------------------------------------|---|
| <p>片山委員</p> <p>教育長</p> <p>生涯学習課長</p> | <p>ほかに何かないか。</p> <p>○ 先ほど教育長の学校訪問の中で、学習支援のボランティアさんが入っている学校が2校ほどあったと思うのだけれども、そういったことが広がりつつあるものなのか、そういった学校に入ってきて学習支援をしてくださる方がどういう経緯で支援しているのか、少しお聞かせいただければありがたい。</p> <p>○ 学校ボランティアでというと、生涯学習課のほうから。</p> <p>○ 申しわけない。ちょっと具体的な数字は持っていないのだが、学校支援ボランティアの関係で、資料をすぐ持ってまいる。</p> |
| <p>岡林教育次長</p> | <p>○ 私の経験も踏まえてなのだが、様々な場面で外部の人材を活用しようということが学校の文化として根づいてきているように思う。小学校のほうがかつたのだけれども、例えば総合的な学習の時間の中で、農業体験などを通して、地元の農家の方などに来ていただいて指導してもらうとか、家庭科のミシンの指導などのときに大人が目があったほうが安全にできるというので、お母さん方にも手伝いを願う。そのような中で、生涯学習課が学校支援ボランティアという制度を設けて、人材バンクなのだけれども、得意分野を登録していただいて学校のニーズに合った人材を派遣してくれる。昨今の学力向上というテーマがどんどん広がる中で、では普通の授業の中でどのようなことが活用できるか、あるいは最近増えてきたのが放課後の学習である。放課後の補充学習のようなものにも活用が増えてきて、生涯学習課で学習サポーター、学生を放課後学校に派遣して、学校が学習支援ソフトなどを使いながら、子供たちの学力補充をやっていくというようなことで、どんどん広がっているように感じているが、やはり学校が少し垣根を低くして外部の方にしっかり来ていただくというような姿勢を見せているのが大きいのかなという気がする。</p> |
| <p>片山委員</p> | <p>○ それでは、やはり学校の先生からの評価も外部の方が入ってもらうほうが効果的というご評価なのか。</p> |
| <p>岡林教育次長</p> | <p>○ そうである。やはり、様々な大人の方に入ってきて、もう一つは学校のことをよく理解していただいて、実態をまた地域で広めていただくという効果はあるのだが、コーディネートする教頭先生とか教務主任の先生は少ししんどいかもしれないが、それ以上の効果があると思ってやっている。</p> |
| <p>生涯学習課長</p> | <p>○ 大変失礼した。</p> <p>学校支援ボランティア事業だけれども、平成31年3月末現在でのボランティアの方の登録は約7,300人余ということである。学校や地域での教育活動の取組に対して、学生や保護者、地域住民の方がさまざまな特技を生かして支援していただいており、学校教育、地域の活性化も図っていただいているということである。授業支援、見守り、環境整備ということで、カテゴリーがある。そういったことを中心に学校支援に対して多大な役割を果たしていただいております、学校現場にとってもなくてはならない存在ということで考えている。</p> |
| <p>教育長</p> <p>石井委員</p> | <p>○ そのほか何か。</p> <p>○ 今のところと関連して、最初の教育長の話で、教頭先生が地域との関係を上手にさばくというか、適度な距離にするということと、それから地域からの協力を得るためにはやはりより結びつきを強めなければならないという要素と両方あり、そこは非常に難しいところと思う。先日ニュースで見たのだが、教頭先生になりたい人がほとんどいないという、それはほかの県の例であったが、80%の人が管理職でない教員として仕事をしたいという、何かそういうデータも拝見して、そこの働き方改革も合わせて、そこの教頭先生の仕事、先生方の仕事もそうかもしれない。そこは市としてなかなか全て同じように進めるというのは難しいと思うけれども、何か上手なやり方というのを広めていくという必要性も教頭先生になりたくない人がそんなにたくさんいるのであれば必要かなとも思うけ</p> |

| | |
|-------------------------------|---|
| <p>岡林教育次長</p> | <p>れども、ちょっと状況とか今後についてお伺いしたい。</p> <p>○ やはり、教員は授業をやりたい、学級経営をやりたいというのがある。それから、最後まで自分が育てた子どもたちっていうのを思う。だから、教頭になりたいと思う人はなかなかレアな方なのかもしれないなど、私自身もこういう立場になってしまったのだけれど、本当言えば学級持って授業をやって部活をやりたいというのはずっと思っている。とはいうものの、やはり優秀な方が全体をコーディネートし、学校運営に取り組んでいただくということではなくてはならないことなので、私たちはそういう人材をしっかりと発掘して、適材適所というようなことも考えていかなければいけないというようには思っている。</p> <p>それから、教頭の仕事というのは、非常に大きいけれど、非常に楽しい一面もあって、やりがいのある仕事だが、今学校アシスト、業務アシストという制度を始めて、教員でなくてもできる、どんな仕事をとっていただけるのかというところで今取り組んでいるのだけれども、案外教頭の仕事というのはそういうところへとっていただけることがあるので、そんなサポート体制でもって教頭先生の負担軽減というものは考えていくべきだし、そういうこともだんだんと進んでいる。逆にこれはとってあげたら教頭先生楽になるのだがというふうなものは、やはり経験した者でないとうわらないことがあるので、そういったアドバイスもできたらというように思っている。</p> |
| <p>教育長</p> | <p>○ 東京なんかは希望降任の制度をつくっている。教頭にはなったけど、自分で希望してまた教員に戻るといいう制度をつくっている。すごく活用しているらしい。岡山市ではそれはない。ないが、特に教員に戻りたいという意見も聞かないので、まあいいのかなというように思うが、この中で3人は教頭を経験したことがあるが、校長のときよりも物理的には仕事量は多い。ただ、やりようによっては楽しい仕事でもある。心の持ちようかなあとは思う。今、そうやって外部からいろんな人材活用とかというのものもあるし、行事もあり、学校が様々なことをやらないといけないということで、そのコーディネートの中心は教頭なので、やはり負担は大きくなると思う。</p> <p>そのほかないか。</p> |
| <p>河内委員</p> | <p>○ お願いなのだが、すぐというのは難しいと思うのだけれど、やはり不登校がどういうタイプの不登校がふえて、それはどういうところに課題があるかということがいま少しわからないので、また次回まででよいので、そのあたりを文科省に報告された資料とか、それも分類して報告をされていると思うので、そういった中だけでもいいのだけれども、ちょっと教えていただけたらありがたい。</p> |
| <p>教育長</p> | <p>○ 宿題ということで。</p> |
| <p>7 議事の概要</p> | |
| <p>教育長</p> <p>全委員 教育長</p> | <p>○ただいまから11月の岡山市教育委員会定例会を開会する。 本日の傍聴希望者はいない。 日程第1、会期について、本日一日限りとしてよろしいか。</p> <p>○ 〈承認〉</p> <p>○ 日程第2、こちらに9月、10月の定例会の議事録がある。順次ごらんいただいて問題がなければご署名をお願いします。 9月の定例会は藤原委員が署名されるので、河内委員は10月からということをお願いする。 それでは続いて、事業報告をご覧いただいて、何か質問があるか。</p> |

| | |
|----------------------------------|---|
| <p>教育長</p> <p>全委員</p> <p>教育長</p> | <p>(会議録6「教育長の報告」に記載)</p> <p>○ では、次の議事に入る前に、会議の公開、非公開についてお諮りをする。</p> <p>日程第4の報告第33号及び第34号は、教育事務に関する議会の議案等についての市長への意見の申し出に関する事項として会議規則第7条第1項第3号に該当するため、非公開としたいと思う。委員のみなさん、いかがか。</p> <p>○ (承認)</p> <p>○ それでは、日程第4の報告33号及び34号は、非公開と決定する。</p> <p>ここからは、すべて非公開となるため、関係者以外は退席願う。</p> |
|----------------------------------|---|

| | | |
|-------|---|----|
| 傍聴の状況 | | |
| 報 | 道 | 0名 |
| 一 | 般 | 0名 |

令和元年11月 岡山市教育委員会定例会（非公開） 会議録

| | | | |
|----------------------|-----------------------------------|---------------------|-----------|
| 1 開催日 | 令和元年11月19日（火） | | |
| 2 開会及び閉会 | 開 会 | 14時30分 | |
| | 閉 会 | 14時50分 | |
| 3 出席委員 | 教 育 長 | 菅 野 和 良 | |
| | 委 員 | 石 井 希 典 | |
| | 委 員 | 妹 尾 直 人 | |
| | 委 員 | 片 山 美 香 | |
| | 委 員 | 河 内 智 香 | |
| 4 会議出席者 | | | |
| 職 名 | 氏 名 | 職 名 | 氏 名 |
| 教育次長 | 石 井 雅 裕 | 教育次長 | 岡 林 敏 隆 |
| 次長（教育総務部長兼務） | 赤 野 政 治 | 学校教育部長 | 奥 橋 健 介 |
| 生涯学習部長 | 重 松 浩 二 郎 | 教育企画総務課長 | 小 林 芳 由 |
| 学校施設課長 | 板 野 正 博 | 生涯学習課長 | 湊 田 裕 之 |
| 生涯学習課公民館振興担当課長 | 今 村 正 樹 | 生涯学習課公民館振興室室長補佐 | 黒 瀬 高 弘 |
| 事務局 （教育企画総務課課長補佐） | 澤 谷 好 太 郎 | 事務局 （教育企画総務課副主査） | 猿 渡 奈 津 江 |
| 5 議題及び結果 | | | |
| 報告第 33 号 | 専決処理の報告（市議会の議決を経るべき議案の原案への同意について） | | 承 認 |
| 報告第 34 号 | 専決処理の報告（市議会の議決を経るべき議案の原案への同意について） | | 承 認 |